

委員からの意見等資料

第11回 地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議

宇大スピリッツ3C

~Change~

主体的な挑戦により、自らを変え、社会に貢献する

~Challenge~

~Contribution~

平成29年10月5日
宇都宮大学長 石田 朋靖



地域デザイン科学部 創設の構想と目的

◆背景と地域の期待

社会	の変容 少子高齢化、地域経済・社会のグローバル化、産業構造の変化、自然環境の変化、価値観の多様化
地域	課題の顕在化 地方都市や中山間地域の衰退、生活環境の変化、コミュニティ機能の後退、社会的、自然的なリスクの増加
対策	の現状 対策事業は実施されるが、個々の課題に対応するレベルにとどまっている

総合的な課題解決が必要

地域デザインを総合的にマネジメントできる人材への期待
⇒地域そのものを対象とした総合学

◆宇都宮大学の強み

- ✓ 地域貢献度全国の大学トップの実力（日経グローバル誌による平成18年からの順位の平均）
- ✓ 地（知）の拠点整備事業の全学的推進
- ✓ 中規模国立大学ならではの学内異分野連携と地域志向の教育研究実績
- ✓ 地域の産官学のネットワーク中核拠点として機能してきた実績を即活用可能
- ✓ 都市、農村、里山、奥山までの多様なフィールドを結合した地域デザインが可能

地域デザイン科学部のミッション

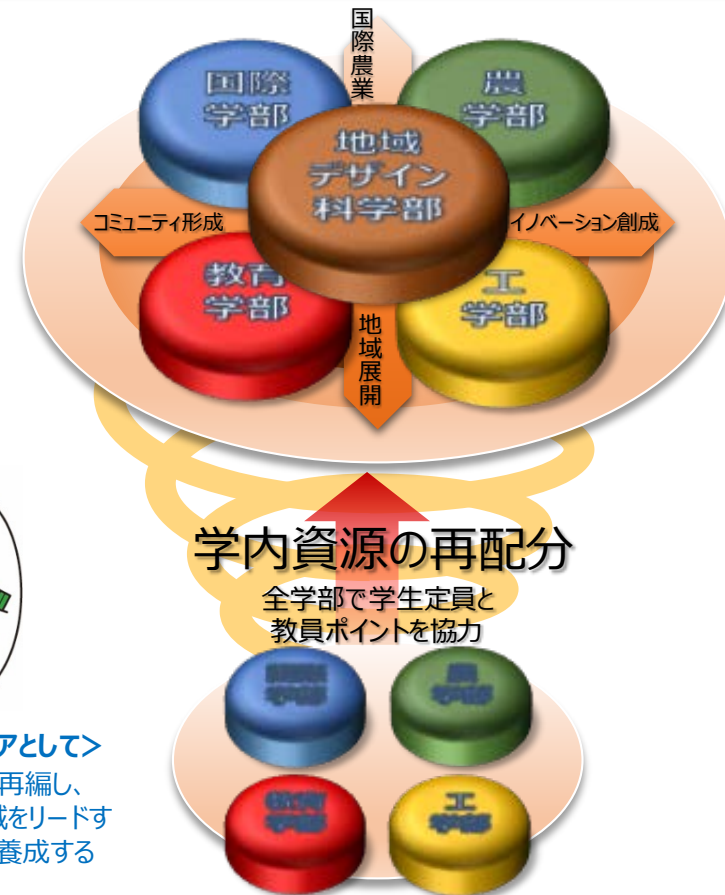
21世紀の地域社会を持続可能で豊にするために、新しい地域デザインに必要な教育・研究・地域貢献に取り組みます。

◆養成する人材像

魅力ある地域をつくるため、地域の課題を理解し、各地域の資源と特性を活かした“まちづくり”を支える人材を育成。



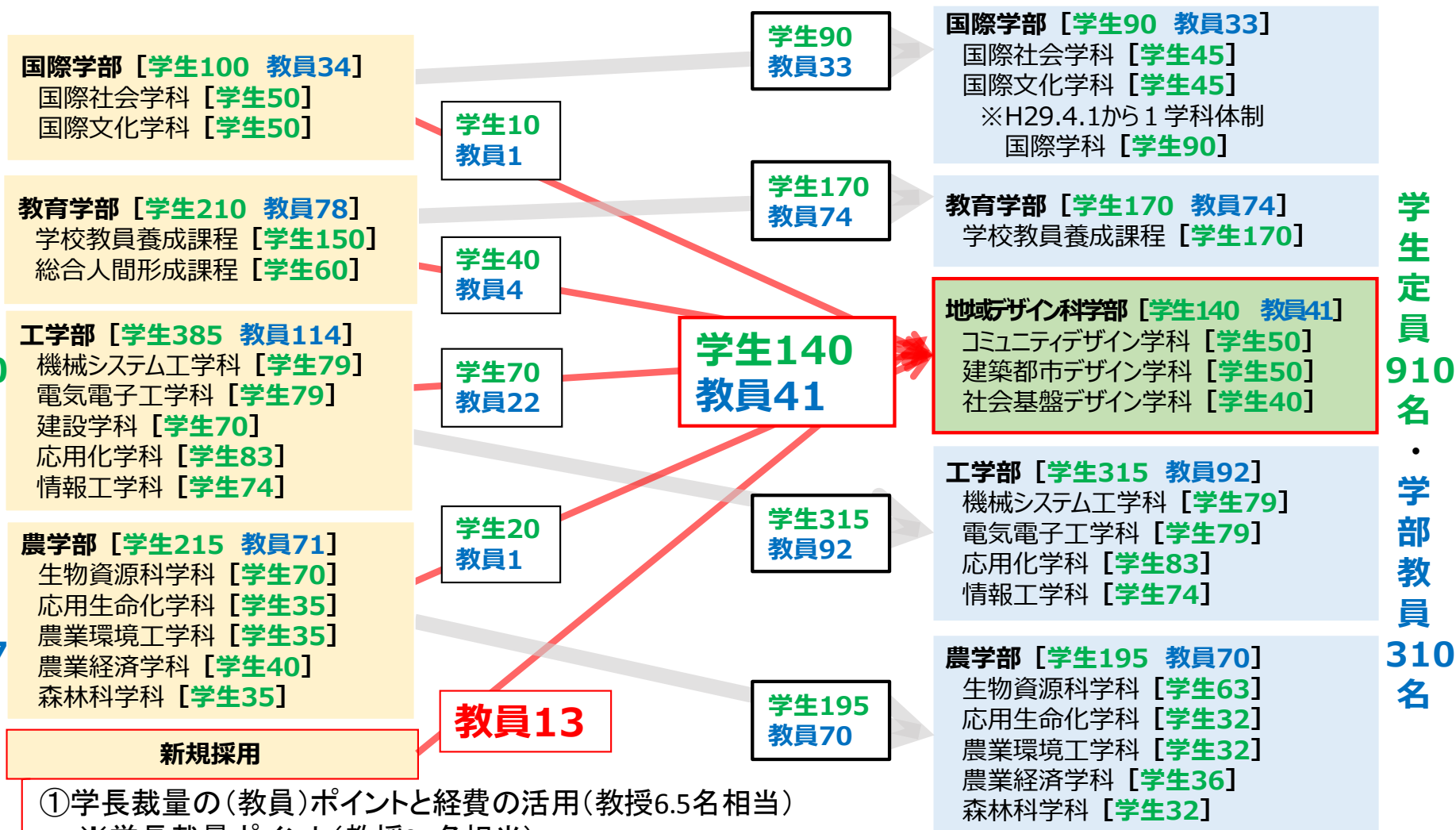
＜地域に強い宇都宮大学のRebirthフロンティアとして＞
地域の活性化と直接的に関わる領域を全学的に再編し、「地域デザインのプランナーやエンジニア」として地域をリードする人材を、文理融合と理系異分野融合によって養成する
only oneの新学部を創設



学内資源の再配分による特化・強化

◆学内資源の再配分 (H28.4.1)

学生定員
910名
・学部教員
297名



①学長裁量の(教員)ポイントと経費の活用(教授6.5名相当)

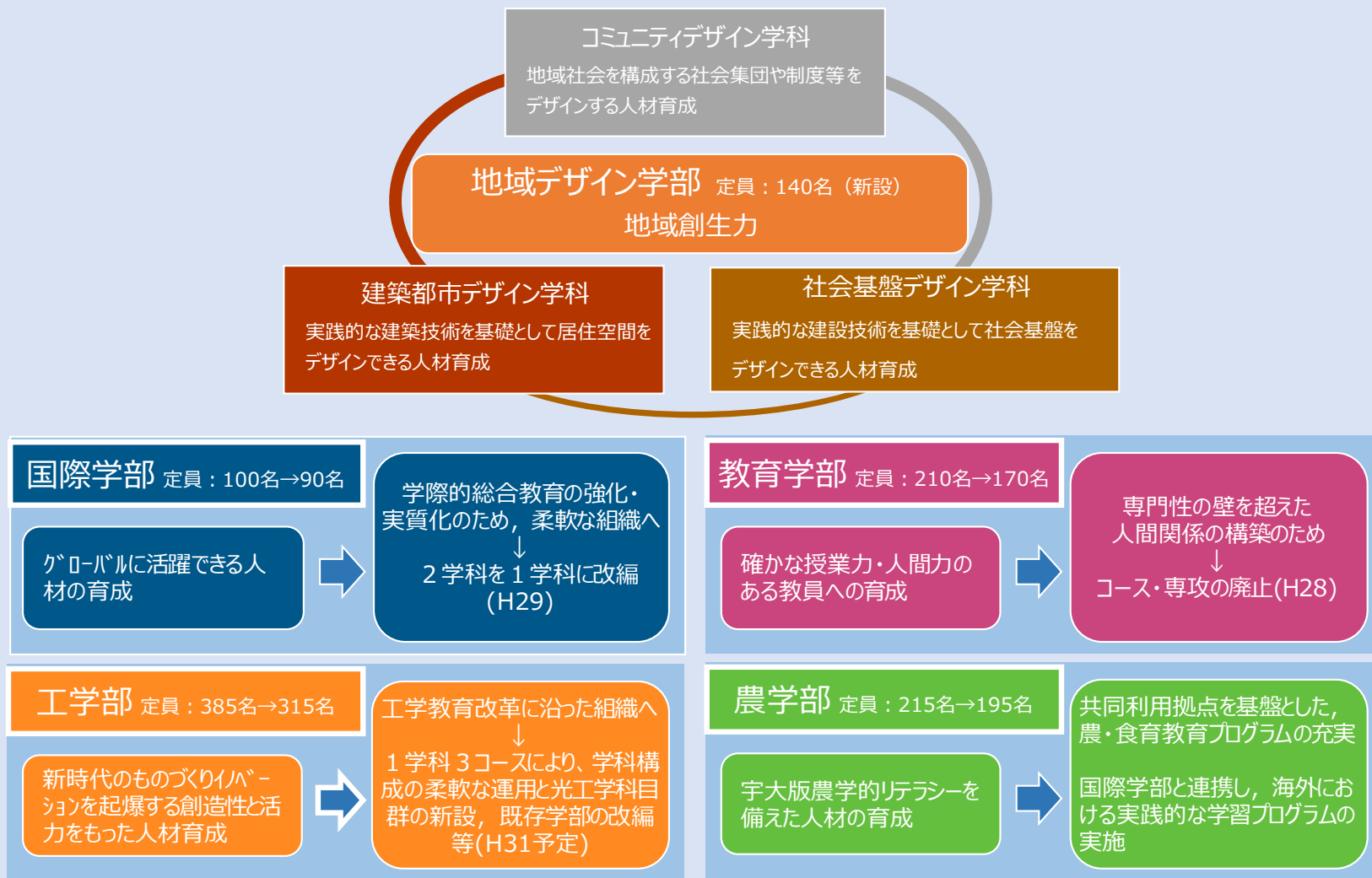
※学長裁量ポイント(教授27名相当)＝

各部局の強みを伸ばすための貸与(5年間)+大学の強み・新たな需要への配分(新組織,FD,IR,URA等)

②不足分を各学部から教員ポイントで拠出(教授4.9名相当)

地域デザイン科学部設置とそれに続く改革

～グローバル化・イノベーション・地域を3つの重点的なキーワードとして、
社会的課題解決に貢献できる人材の育成に強化～



改革に向けた教育組織と教員組織の整備（教教分離）

導入の背景

- ◇人件費予算の漸減による教員数の減少
→基盤教育を含めた教育プログラムの全員体制による支え合いの必要性

利点

- ◇一通りの分野を持つ総合大学ながら、構成員の
お互いの顔が見える適度
な規模

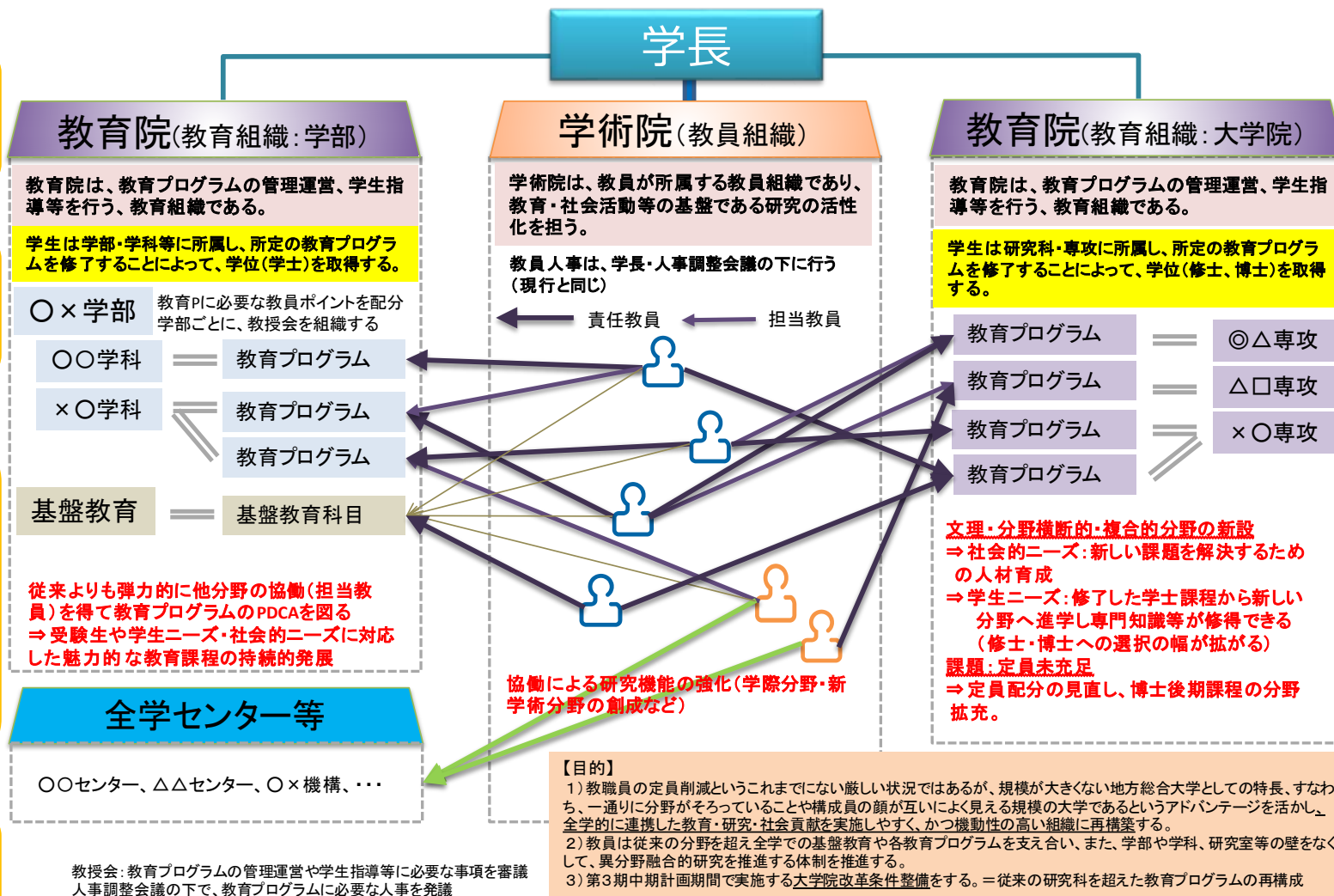
特徴

- ◇全教員が学術院（教員組織）に所属し、学部の壁をなくした機動性の高い組織構造

期待される効果

- ◇文理・分野横断的・複合的分野の新設
→社会的ニーズ：新たな課題解決のための人材育成
→学生ニーズ：修了した学士課程から新たな分野への
進学（専門知識選択の幅拡大）

- ◇文理・分野融合型の大学院へ全面改組（H31予定）



弾力的な組織への改革⇒文理・分野融合の実質化 & 新領域の創成 & 持続的な革新